

シミュレーション Case05 中学3年生のE君の場合

【プロフィール】

- ・中高一貫校に通う中学3年生。
- ・学校では中学数学の範囲を終了し、中3から先取りして、高校数学の学習が始まる。
- ・将来は国立大学の理系学部を目指している。

高校範囲は学習内容も高度になり、これまで以上にしっかりと勉強が要求されます。また、中学から大学受験までの道のりは非常に長いです。年間だけでなく、**長期的な視野をもった形でスケジュールを立てる必要があります。**

【カウンセリング】

E君はこれまで学校のみで数学の勉強をしていましたが、中学3年生になり、**高校分野の学習が始まることに不安**を覚えています。中学範囲では関数分野に不安があったので、春期講習では先取りはせずに、関数範囲の復習に時間を充てることにしました。5月以降の「2次関数」の学習も通常より多めに時間をとり、2カ月かけて完成させることにしました。

2学期以降も学校の進度に合わせながら、数学I Aの範囲を1年間をかけてじっくりと学ぶ計画としています。また、高校数学は数学I・II・III・A・Bの5つの科目に分かれます。E君は将来、理系の学部を考えているため、そのすべてを学習する必要があります。高1で数学II B、高2で数学IIIを学習し、**高3スタート時には、本格的な入試対策へスムーズに移行できるような長期的な計画も同時に立てます。**

【実行結果】

中学範囲の計算や知識は高校数学ではすべて前提として話が進みます。夏期講習では三角比を学習する際に、中学範囲の図形分野で理解が不足している箇所があったため、あわせて復習を行いました。また1学期に学習をした数学I範囲の演習も行い、定着をより強固にします。

学校に合わせたカリキュラムなので、**塾と学校での学習内容もリンクし、学習ペースも掴みやすくな**りました。定期考査の週は追加でテスト対策も行ったため、数学の成績も安定するようになりました。

数学I Aの範囲が一通り終わった冬期講習後は、予定通り数学II範囲の学習へ移り、スムーズに高校範囲の学習に入ることができました。

中学範囲の計算や知識は高校数学ではすべて必須です。不安箇所は徹底的に無くして、手が自然に動くレベルまで習熟をすることが次の段階へ進むために欠かせません。足りない箇所をしっかりと見極めて、必要であれば中学範囲に戻り学習を行います。また個別指導ですので、**学校との学習内容も合致したペースで無駄なく勉強が進められます。**

年間スケジュール

月	週	テーマ	レベル・形式
春期	1	中学数学復習(関数)①	数学 I 基礎講義
	2	中学数学復習(関数)②	
4月	1	数と式①	
	2	数と式②	
	3	数と式③	
	4	数と式④	
5月	1	2次関数①	
	2	2次関数②	
	3	2次関数③	
	4	2次関数④	
6月	1	2次関数⑤	
	2	2次関数⑥	
	3	2次関数⑦	
	4	2次関数⑧	
7月	1	データの分析①	
	2	データの分析②	
夏期	1	三角比①	
	2	三角比②	
	3	三角比③	
	4	三角比④	
	5	三角比⑤	
	6	三角比⑥	
	7	数学I演習①	
	8	数学I演習②	
9月	1	場合の数①	数学A 基礎講義
	2	場合の数②	
	3	場合の数③	
	4	場合の数④	
10月	1	確率①	
	2	確率②	
	3	確率③	
	4	確率④	
11月	1	整数①	
	2	整数②	
	3	整数③	
	4	整数④	
12月	1	整数⑤	
	2	整数⑥	
冬期	1	図形①	
	2	図形②	
	3	図形③	
	4	図形④	
1月	1	数学A演習①	数学 II 基礎講義
	2	数学A演習②	
	3	式と証明①	
	4	式と証明②	
2月	1	式と証明③	
	2	式と証明④	
	3	複素数と方程式①	
	4	複素数と方程式②	

【春期～夏期】

中高一貫校の場合、中2までに中学範囲を終了し、中3からは高校範囲の学習を始めることも多いです。**特に最初に学習する「数と式」「2次関数」は高校数学のすべての基礎**となる単元です。1学期の第一目標はこの単元を確実に身につけることです。数特塾では大学受験に向けてどの時期にどの単元をどこまで学習すべきか、一人ひとりの目標に合わせて**進度やレベルを適切に設定**します。

【9月～1月】

数学Aの内容を1学期同様学習していきます。各単元の学習時期を学校進度に合わせているので、定期考査の対策も同時に行いつつ、カリキュラムを進行させます。**学校と塾との学習をリンク**させて、学習効果を高めます。

【1月～高1】

1月からは、高2範囲を先取りして学習をします。**無理のないペースを維持しながら、入試の準備を早い時期から進めていくことができます。**